

役員会議題

1. 本年度の活動について

(ア)六樹会サロン

(イ)健やかサロン（檀原教室・応用科）

- ① ファイル管理に多くの時間を割き、若干遅れ気味で、現在、画像処理に入ったところ
- ② 画像処理は、Picasa 3からフォトギャラリーに変更し、日程の見直しが必要。
- ③ 出席状況 ⇒ 86%（筑波さんを除くと91%）
- ④ 筑波さん ⇒ 長期欠席（後半は、辞退か）

(ウ)健やかサロン（檀原教室・基礎科）

- ① インターネットに入り、メール環境構築に苦慮。インターネット関係を1回追加予定。
- ② 宇陀教室より岡田さんが転校して、現在15名。その岡田さん宅が火事で欠席中。
- ③ 出席状況 ⇒ 96%

(エ)健やかサロン（宇陀教室・基礎科）

- ① 台風12号の関係で9月2日は休講。代替え日として、11月21日もしくは12月11日に
- ② 講座進捗は、檀原教室より遅れているが、状況は、ほぼ同じ。
- ③ 増田さん ⇒ 7月より母の介護の関係で辞退。現在、10名の受講生で運営
- ④ 出席率 ⇒ 98%

(オ)カレッジ9期生対応

- ① 8月10日 ⇒ 見学者12名対応
- ② 10月4日 ⇒ 檀原教室にて、PVC六樹会の活動を紹介
- ③ 10月6日 ⇒ 奈良教室にて、同上
- ④ レジメ（案）は、別紙のとおり

2. 来年度に向けて

(ア)財団常務理事との懇談状況

- ① 横尾さん、報告をお願いします。

(イ)六樹会サロン

- ① 財団の移行状況を逐次情報を入手して、会場確保が必要。2階のミーティングルームを活動場所に変更か

(ウ)健やかサロン（榎原教室・基礎科／応用科）について

- ① 六樹会サロンと同様に、財団の移行状況を逐次情報を入手して、会場確保が必要。（他の場所の確保の検討は）
- ② 募集に当たり、榎原市広報（かしはら＝3月号）への掲載依頼、また、教育委員会等の後援を得るか

(エ)健やかサロン（宇陀教室・基礎科／応用科）について

- ① 本年度と同様に、基礎科の募集を
- ② 会場は、商工会館の継続使用可能か
- ③ 応用科は、最低何名で開設か。経費を含めて検討が必要

(オ)活動地域の拡大（西和での活動）について

- ① 3班のメンバーの意向は、

(カ)メンバーの拡大について（応用科メンバーの受け入れ）

- ① 応用科の西井さん（5期生）、林さん・中西さん・佐渡さん（7期生）、藤崎さん（8期生）が、カレッジ卒業生であり、PVC六樹会活動の参加を呼び掛けて、六樹会サロンで一緒に学習をして、活動を進めては、

(キ)NPO法人化について

(ク)その他

3. 臨時総会の開催

(ケ)総会開催日

- ① 六樹会サロン開催日（10月12日もしくは10月26日）

(コ)議題

- ① 前半期の活動を振り返って
- ② サポーター等費用の清算
榎原教室と宇陀教室の交通費補助費の取扱い方法の整理
- ③ 来年度の活動に向けて
- ④ その他

4. その他

PVC六樹会パソコンサロンの紹介

ボランティア活動を振返って

鎌田 洋

初めに

私は、平成19年秋に河内長野市から橿原市に居を移した者です。

平成15年秋に、河内長野市市教育委員会主催の「パソコンボランティア養成セミナー」に参加をしたのが、パソコンボランティアの始めです。橿原市に転居後、新たな活動と活動仲間を求めて、平成20年春に「まほろばシニアリーダーカレッジ（第6期生）」に応募しました。

残念ながら、在校中には、新たな活動も活動仲間も得ることができませんでした。また、パソコン教室の開催は、頭から出来ないと思いついでいたのですが、卒業後の同窓会設立総会において一変しました。後ほど、詳しく経過説明をしますが、財団法人・健やか奈良支援財団のご指導・ご支援を得ながら、同窓会役員の横尾とともにパソコン学習会を計画しました。そして、平成22年2月に「PVC六樹会サロン」を立ち上げ、平成22年5月から、1年間の学習会活動の成果をもとに一般の方を対象にした「健やか奈良パソコンサロン」（パソコン講座）を開催しています。

このような活動について説明の機会をいただき、また、私自身のこれまでのボランティア活動について振り返る機会になったことを感謝しています。少しの時間ではありますが、ご清聴いただき、今後のみなさんの今後の活動に参考になれば幸いです。

PVC六樹会サロンについて

1. 設立の経緯及び活動状況

(ア) カレッジ在学（平成20年度）

- ① 残念ながら、まほろばシニアリーダーカレッジ在学中は、サークル活動はなし。

(イ) カレッジ卒業1年目（平成21年度）

- ① 同窓会設立総会当日（4月21日）、総会終了後、有志によるパソコンに関する意見交換実施。
- ② 財団に指導・支援をお願いして、同窓会役員の横尾とともにパソコン学習会を計画し、6月3日から、県立社会福祉総合センタにおいて、年賀状作成を目標に、Wordの学習会（六樹会サロン・基礎科の原型）を開始（同窓会メンバー35名中、19名参加）
- ③ 並行して、横尾とともに、インターネットの学習会場の確保及び設備の調達の検討を進め、9月、インターネット及びExcelの学習会を計画。
- ④ その後、財団の指導のもと、地域活動に向けて検討開始し、11月上旬、「健やか交流塾」に企画書提出。諸般の事情により、12月に取り下げるとともに、財団の指導・後援を得て、独自に「健やか奈良パソコンサロン」の開催を検討。
- ⑤ 平成22年2月17日、「PVC六樹会サロン」設立総会を開催（会員=16名）

(ウ) カレッジ卒業2年目（平成22年度）

- ① 財団の広報誌「すこやかなら」（2010年春号）に募集広告の掲載を機に、「健やかサロン（檀原教室・基礎科）」の募集を開始し、5月19日、「健やかサロン（檀原教室・基礎科）」午前・午後の2コース（1コース=12名）開講。
- ② 同時に、高度なWordと画像処理の学習会を計画して、「六樹会サロン（応用科）」を開催。
- ③ 8月に、宇陀地区の長浜会員が、宇陀教室開催を模索して、宇陀市の「ふるさと元気村」（近鉄室生口大野駅からタクシーで25分）の協力・支援を得る。
- ④ 9月に、檀原市畝傍地区公民館主催の「パソコン教室」への講師派遣依頼があり、臨時総会を開催して、10月から12月に、畝傍地区公民館で、初心者対象コース（Word主体）と経験者対象コース（Excel主体）を開催。（各コース=12回、12名）
- ⑤ 臨時総会后、松本会員が、知人を通じて、近鉄榛原駅前の「宇陀商工会館」の借用を決めるとともに、長浜会員が、宇陀市・宇陀市教育委員会の後援を得る。

(エ) カレッジ卒業3年目（本年度）

- ① 財団の「すこやかなら」（春号）及び宇陀市広報（3月号）に「健やかサロン（檀原教室・基礎科）及び（宇陀教室・基礎科）」の募集広告を掲載して頂き、4月から、前年度の基礎科テキストをWindows7主体のテキストに改版して、それぞれ、14名及び12名で開講する。
- ② 前年度の健やかサロン（檀原教室・基礎科）の受講生に対して、応用科の募集を行い、17名で開講する。講座内容は、前年度の「六樹会サロン（応用科）」の内容であり、内容の精査をして、テキストを改版する。
- ③ 一方、「六樹会サロン（応用科）」は、若干、予定どおり進まず、7月末に終了して、8月から「六樹会サロン（研修科）」として、会員の要望テーマと健やかサロンのサポートに必要な新技術の習得の講座を進めている。

(オ) 現在の活動状況（10月1日現在）

- ① 健やかサロン（檀原教室・基礎科） ⇒ 受講生=15名
- ② 健やかサロン（宇陀教室・基礎科） ⇒ 受講生=10名
- ③ 健やかサロン（檀原教室・応用科） ⇒ 受講生=17名
- ④ 六樹会サロン（研修科） ⇒ 14名で活動

2. 問題点・課題（将来構想）

- ① サポーターの技術向上&新たなメインインストラクターの育成
- ② 「健やかサロン」の開催地域の拡大（西和地区）
- ③ 健やかサロン（檀原教室・応用科）修了生に対するサポート方法
- ④ 会員の拡大（カレッジ卒業生との連携）
- ⑤ 財団からのご指導から、NPO法人化の是非の検討

パソコンボランティアの活動経験&活動方法について

1. パソコンボランティアキーパル（平成16年度～平成19年度）

- ① 半官製ボランティア（活動は、市社会教育課及び公民館が全面バックアップ）
- ② ハード面（パソコン、会場確保、広報） ⇒ 市社会教育課及び公民館
- ③ ソフト・運営面 ⇒ パソコンボランティアキーパル

2. 天見生きがいサロンパソコン塾（平成17年度～現在）

- ① 大阪府高齢者生きがい作り支援事業の認可事業
- ② 開設時、大阪府より、150万円の支援金を受け、前の部落の集会所を借用して、常設のパソコン教室（1コース=6名）を設営
- ③ 大阪府の指導もあり、有償ボランティア

3. NPO奈良シニアIT振興会（平成21年度～現在）

- ① 奈良県高齢者大学のサークル活動からNPO法人に発展
- ② 公共機関の施設を利用
- ③ 受講生数名に対して、サポーター1名を配置（きめ細かい運営）
- ④ NPOの性格上、有償ボランティア

4. PVC六樹会サロン（平成22年2月～現在）

- ① 「まほろばシニアリーダーカレッジ」のサークル活動の成果を地域活動に
- ② 財団法人・健やか奈良支援財団の指導及び後援
- ③ マイパソコンによる講座開催

活動を振り返って

1. 所属グループ（グループ運営）

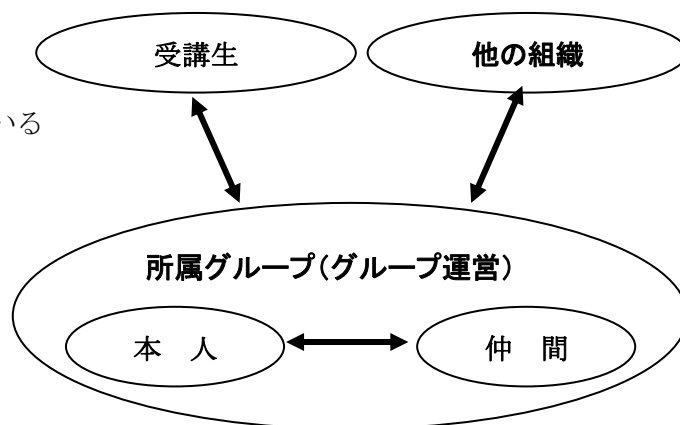
- ① メンバーの相互理解がはじめの一歩
- ② まずは、自分で出来ることを積極的に
- ③ 第1に、メンバーが楽しめる企画を
- ④ リーダは、現在は調整型リーダーが望まれている
ただし、時には強引に、また、率先垂範を
- ⑤ 継続には、有償ボランティアを

2. 受講生との関係

- ① 受講生の立場に立って
- ② ボランティアといえどもプロ精神で
- ③ 受講生に対して責任を（迷惑をかけない）
- ④ 受講生は人生の先輩

3. 他の組織との関係

- ① 行政の支援事業は、積極的に活用を
- ② 担当者との情報交換を密に



活動経験から見たボランティアグループの相互関連